

てんせい

No.216
発行所 天狗塚
責任者 藤谷 幸
0883-88-529
夕暮れ近く
いめる
なるとヒゲラフ

祖谷は、今、卯木のまろ盛りです。あちこちに白い花が咲いてます。それに、も一つ、白い葉が緑の中に、まるで花の様にみえるのが、マタビです。白い葉がみえだすと、マタビの花が咲きはじめます。

林道、農道、どいどい白いは、ドクダミ。名前よりもずっと愛らしい花です。それと、ヒメジョオンも

地

祖谷

域

くみの一つです。

人、そのために、春を感心したり、季節ごとに見たい野の花を遠うぶしようが、春は福寿草やユキワリイナゲに出逢うと、やと春にばあとおは嬉しくなります。そこ、ヤマヤクヤク、ミツバツツと続きませんが、これからは、ベニバナヤマヤクヤクやオオヤマシロバナが見にくくなります。卯の花が咲きはじめ、カブトの鳴きまがすると、童謡の様に「夏は来ぬ」で、汗ばみ様になり、散歩道で、マサギマダラに出逢うと嬉しくなりました。



天狗塚遊歩道 藤谷幸より

の 宝

の音が聞こえたり、川近くではカサカカ、エルの合音も多くなつてくる。どれをとこと、祖谷の自然の中では、あつり前の季節を教えこくれる風物。大切な宝のひとつ。

どことえ、ありふれた野の花であつても宝物に違りありません。そんな野の花があつり前すぎた失くした事やどきえとこませんが、時々、昔はあそこにいっほいあつたなあという話を聞きます。

どことえ、祖谷の谷の敷所に自生してこの今をほとんど目にしません。それから、祖谷では、いかにババといふ名前が呼



ばれている。「ランラン」。ほとんどなくつる様です。クマガイソウもさしかり。ランと名のつく山野草は、かつこのブームの為に自生は見かけにくくなりました。それだけ、宝物が失われ、ことにありますが、誰もいんとありません。誰か損をこいなりかんかうか、関心が少ないからか不明ですが、話題にも問題にもならないう様です。大切な物には、都合にあるもの、どうにか、あるいは、祖谷にあるもの、どうにか、ちまうと考えてみる必要があつたので、

山にいて、山を知らなければ、生きえいけません。野にある野の事を知らなければ、大切にもくません。山にいて、山を知らず、野にある野を知らず、生きえいには、目も心も、断へ、都合にむけて、自らを失くすことになつたとおもうのが、